



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

ナウル共和国

— 2017年度 地域巡回機能回復等支援事業 —
(終了時評価-2018年4月)

事業概要

国名	ナウル共和国
プロジェクト名	2017年度 FDAPIN VI プロジェクト
実施期間	2017年7月4日～2018年3月31日
相手国政府覚書 署名省庁名及び 実施機関	覚書署名省庁： 漁業海洋資源局 (NFMRA) 実施機関： 漁業海洋資源局 (NFMRA)

プロジェクト実施の経緯と背景

ナウル共和国 (以下「ナウル」という。) 政府は、2005年に長期戦略 (National Sustainable Development Strategy 2005年～2025年 (NSDS、2009年に改訂)) を打ち出した。このうち海洋・漁業分野においては以下の8項目を掲げている。

1. 漁業海洋資源局 (以下「NFMRA」という) の組織力の強化
2. 海洋資源からの持続的な経済収益の拡大
3. 商用漁業の開発の核となる民間漁業活動の促進
4. 水産養殖の開発促進
5. 食糧安全保障及び代替生計手段を広げる持続的な海洋資源の活用



- 6. 海洋生物及び生態系を保護するための持続可能な実践的活動の確立
- 7. 違法、無規制、無報告漁業の排除
- 8. 沿岸海洋資源の調査

このような戦略の下、NFMRA ではワークショップの活用、資源調査等に用いる多目的船や多目的船揚げ降しのための車両の管理運営等、幅広い活動を実施している。しかしながら、多目的船や車両は、故障、老朽化等により本来の機能を発揮することができず、漁業の開発・振興に支障を来している。

このため、ナウル政府は、公益財団法人海外漁業協力財団（以下「財団」という。）に対し、水産関連施設等の修理・修復及び現地技術者への技術移転についての要請を行った。

財団は我が国とナウルとの漁業関係の重要性を踏まえ、同国政府の漁業振興策を支援するため、本プロジェクトを実施した。

目標・成果・活動内容等

上位目標	修理・修復対象施設周辺地域の漁業生産性が向上し、小規模漁業が発展する
プロジェクト目標	1. 関連施設の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術の向上 2. NFMRA 無線基地の管轄海域での船舶の安全な航行が確保される
成 果	① NFMRA ワークショップの機能の強化、修理・修復及び技術指導 NFMRA ワークショップの機能が強化され、修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。 ② 通信システムの機能の回復及び技術指導 通信システムの機能が回復し、通信機操作に係る技術が向上する。
活 動	① NFMRA ワークショップの機能の強化、修理・修復及び技術指導 製氷機のコンデンシングユニットを移設するとともに、船外機の点検整備を実施した。また、カウンターパートに対し修理・修復に係る技術指導を行った。 ② 通信システムの機能の回復及び技術指導 通信システムを回復した。また、カウンターパートに対し、通信機の操作及び点検整備に係る技術指導を行った。

投 入	<p>財団側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家 : <p>計画</p> <p style="padding-left: 2em;">巡回指導 : チームリーダー/漁船機関専門家 冷凍機器専門家 冷凍機器専門家 2018年2月初旬～3月初旬(15日)</p> <p>実績</p> <p style="padding-left: 2em;">巡回指導 : チームリーダー/漁船機関専門家 2018年2月16日～3月11日(24日) 冷凍機器専門家 2018年2月25日～3月9日(13日)</p> <p>延日数</p> <p style="padding-left: 2em;">計画 : (45人・日) 実績 : (37人・日) (計画対比 : 82%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な資機材 : <p style="padding-left: 2em;">コンデンシングユニット移設用部材、船外機の部品、無線機、リピーター、アンテナ等一式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業費 : <p style="padding-left: 2em;">予算額 20,486千円 実績額 20,686千円 (予算対比 : 101%)</p> <p>相手国側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主なカウンターパート : <p style="padding-left: 2em;">① NFMRA ワークショップの機能の強化、修理・修復及び技術指導 NFMRA 職員 (2018年2月19日～2018年3月7日)</p> <p style="padding-left: 2em;">② 通信システムの機能の回復及び技術指導 NFMRA 職員 (2018年2月26日～2018年3月2日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト関連予算、土地、施設等 <p style="padding-left: 2em;">ワークショップ、事務室、NFMRA 車両の無償提供</p>
-----	---

評価事項

◆ 妥当性

1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

本プロジェクトは、ナウル政府の長期開発計画において海洋・漁業分野の重要戦略として記載されている「水産養殖の開発促進、食糧安全保障及び代替生計手段を広げる持続的な海洋資源の活用、商用漁業の開発の核となる民間漁業活動の促進」などに合致した事業内容であり、妥当と判断される。

2. 協力ニーズ(対象国、対象地域)との整合性

ナウル政府から、水産関連施設の修理・修復及び現地技術者への技術移転を要請されており、事前調査においてNFMRAワークショップの機能の強化、修理・修復及び技術指導並びに通信システムの機能の回復及び技術指導に対する指導・助言に対する協力ニーズが高いことが確認されている。

3. 環境に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトでは、直接環境に影響を与える活動はなく、廃棄部品等の扱いについては、周辺の自然環境や島民の生活環境に悪影響を及ぼさぬよう、常に環境保全に配慮している。

4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトは、水産関連施設の機能回復を図り、その運営・管理に対する助言を行うものである。今回の対象は、ワークショップ、製氷施設、多目的船、通信システムである。地域零細漁業者の漁業活動が活発になることが想定されるが、漁獲圧は高くなく周辺水域の水産資源に対する負荷は極めて限定的である。

5. その他(プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等)

特になし。

◆ 効率性

1. 事業費及び実施期間

事業費はわずかに計画を上回ったが、実施期間は計画より短くすることができた。(予算及び計画対比:事業費 101%、実施期間 82%)

2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発揮していたか

資機材及び専門家は、実施計画に従いタイミングよく投入され、プロジェクト活動は計

画期間内にすべて完了し、期待された機能及び能力を発揮した。

3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

移転技術は、巡回指導及び漁業普及とともに、専門家が事前調査においてカウンターパートの技術水準を見極めた上で指導内容を検討しており、実施に当たっては適切な指導が行われたことから、カウンターパートの水準に適合していた。

4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

特になし。

5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

NFMRA ワークショップの機能の強化、修理・修復及び技術指導に係るカウンターパートは、本年度に財団が実施した製氷・冷凍機講習会に参加し、技術水準のみならず、勤務態度及びモチベーションも向上したことから、プロジェクトの効率性が一層高まった。

有効性

1. プロジェクト目標の達成度

1) プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標 1. : 関連施設の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術の向上

計画どおり水産関連施設の機能が回復し、また、必要な技術移転が行われ、技術指導によるカウンターパートの基礎知識及び技術レベルが向上したことから、プロジェクト目標は達成された。

プロジェクト目標 2. : NFMRA 無線基地の管轄海域での船舶の安全な航行が確保される

計画どおり無線基地の機能が回復し、また、必要な技術移転が行われ、カウンターパートは無線機の操作方法を習得したことから無線基地の管轄水域における船舶の航行安全性が向上し、プロジェクトの目標は達成された。

2) その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

特になし。

2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

(1) NFMRA ワークショップの機能の強化、修理・修復及び技術指導

施設の修理・修復を行い、NFMRA のカウンターパート及び製氷機のオペレーターに修理・修復に関する技術指導を行ったことにより、技術レベルが向上し、施設の

稼働が円滑になった。

(2) 通信システムの機能の回復及び技術指導

施設の修理・修復を行い、NFMRA のカウンターパート及び無線機のオペレーターに修理・修復及び無線機の操作方法に関する技術指導を行ったことにより、技術レベルが向上し、施設の稼働が円滑になった。

◆ インパクト

1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

本プロジェクトの実施により、製氷施設の修理・修復に関する NFMRA のカウンターパート、製氷機のオペレーター及び無線機のオペレーターの技術が向上したことから、プロジェクト目標は達成された。

今後、製氷施設及び無線基地が順調に稼働すれば、上位目標である修理・修復対象施設周辺地域の漁業生産の増加、小規模漁業の発展の達成に一定の効果を及ぼすとともに、ナウル政府が策定した長期開発計画に掲げる「水産養殖の開発促進、食糧安全保障及び代替生計手段を広げる持続的な海洋資源の活用、商用漁業の開発の核となる民間漁業活動の促進」の達成にも寄与する。

2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

本プロジェクトの実施により、製氷施設が安定的に稼働し、周辺漁民に氷が円滑に供給されるようになった。また、通信システムが安定的に機能し、漁民がより安全に操業できるようになった。

今後、製氷施設が順調に稼働すれば魚価が上がり、通信システムが順調に稼働すれば海難事故の減少により安全性が向上することが期待できる。それにより漁業が活性化して漁民の所得が向上し、対象地域の経済に直接的な効果を及ぼす。

さらに、氷は地域住民にも供給されることから、民生向上に寄与し、対象地域の社会・経済に直接的な効果を及ぼす。

3. その他（ターゲットグループに対するインパクトや、プロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等）

特になし。

◆ 持続性

1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

カウンターパートは NFMRA の職員で、プロジェクト終了後も引き続き本施設の管理を担当する予定である。

供与された資機材は、製氷施設及び無線基地の稼働及び運営・管理に必要なものであり、プロジェクトを通じてカウンターパートに適切に技術移転されたことから、プロジェクト終了後も有効に活用される。

2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

本プロジェクトにより施設の機能が回復され、継続的な活動を可能にする人的・物的環境が整備された。また、ナウル政府は当該施設の継続的運営が同国の沿岸漁業振興に不可欠であることを認識しており、本プロジェクト終了後もこの効果は持続的に発揮される見込みである。

3. その他（持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上